

アクティブラーニング技法ワークショップ 「ピアレビューで学び合いを促そう」

東京大学 大学院工学系研究科
吉田 墨

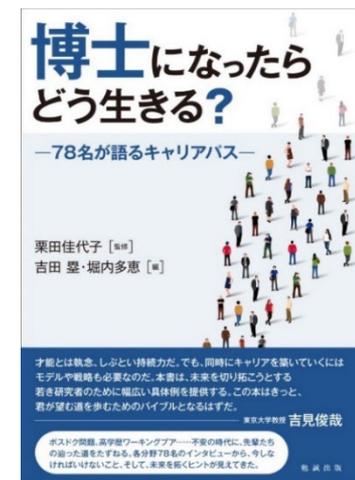
2022年2月25日

自己紹介 ～講師: 吉田壘～

- 東京大学 大学院工学系研究科 准教授 ([研究室 HP](#))
 - 専門: 教育工学 (EdTech, アクティブラーニング, オンライン学習, ファカルティ・ディベロップメント)
 - バックグラウンド: 計算機科学, 生体医工学
- オンラインにおける大規模なアクティブラーニングの実現に向けて活動中 (LearnWiz)

LearnWiz

みんなの学びをもっと楽しく、深く



自己紹介 ～サポーター: 中條麟太郎～

- 東京大学 文学部人文学科心理学専修 3年生
- 東京大学 大学院情報学環 教育部 研究生
 - Human-computer interaction (ユーザーとコンピューターとの関わり)
 - オンライン教育支援 (ポータルサイト・オンライン教育支援サポーター・コモンサポーター運営…)



LearnWiz **one**

みんなの意見を賢く手元に

<https://one.learnwiz.jp/>

β版公開中！

- ・意見/感想を集約/共有できる
- ・一人作業でも他者から学べる
- ・大規模でも使える

質問受付も

本ツールで行います！

今日のゴール

- ピアレビューについて知る
 - 概要
 - うまく実施するためのポイント
 - オンラインでの実施方法
 - 実践例
- ご自身の教育実践内での使い所を考える

ピアレビューについて知る

はじめに

- アクティブラーニングは目的ではありません
- 何を学んでもらいたいのか（目的）を明確にして、適切な方法を用いることが大事
 - 目的によって導入する方法が変わる
- 目的と方法の関係例
 - グループワークの人数は？
 - じっくり話してもらいたければ2人
 - 多様な意見を交わしてもらいたければ3~4人以上
 - グループワークにかける時間は？
 - 簡単に意見交換してもらいたければ3分
 - グループで議論して結論をまとめてもらいたければ20分

ピアレビューとは

- 概要

- 学習者が作成した成果物（例：レポート）を、学習者同士で相互に評価する方法
- ピア評価（アセスメント）とも言われる

- 効果の例

- Topping のレビュー論文（1998）：責任感、エンゲージメント、メタ認知能力など多様な点で効果がある
- Zundert らのレビュー論文（2010）：相互評価スキルを開発することは、思考スキルや学習の達成度にポジティブな影響がある

Topping, K. (1998). Peer assessment between students in colleges and universities. *Review of Educational Research*, 68(3), 249-276.

Van Zundert, M., Sluijsmans, D., & Van Merriënboer, J. (2010). Effective peer assessment processes: Research findings and future directions. *Learning and Instruction*, 20(4), 270-279.

うまく実施するためのポイント

- ルーブリックなどを用いて評価観点を示す
 - 評価観点が明確に提示されると、学生と教員の評価の相関が高くなる (Falchikov & Goldfinch 2000)
- 練習の機会を設ける (Min 2006)
 - 教員がピアレビューの実演をする
 - 評価観点を元に学生が成果物を評価する
 - 学生の評価に教員がフィードバックする
- 良い例、改善の余地がある例を見せる

Falchikov, N., & Goldfinch, J. (2000). Student peer assessment in higher education: A meta-analysis comparing peer and teacher marks. *Review of educational research*, 70(3), 287-322.

Min, H. T. (2006). The effects of trained peer review on EFL students' revision types and writing quality. *Journal of second language writing*, 15(2), 118-141.

オンラインでの実施方法

- 実施方法 Zoom + Google ドキュメント
 - Google ドキュメントに成果物を載せてもらう
 - ブレイクアウトでペア相互でフィードバックする
 - 全体で共有する
- 実施方法 LearnWiz One
 - 問いかけを作成する
 - 成果物（テキストのみ）を載せてもらう
 - 他の成果物に対して、いいね・コメントする
 - 全体で共有する

実践例

- 活用場面：開発途中の Web サービスの相互評価
- 活用方法
 - 授業前
 - 現在構想中の Web サービスの概要をまとめてくる
 - 授業中
 - (グループ) 1人が構想を説明する (3分)
 - (グループ) 利用者の立場でフィードバック (5分)
 - (個人) フィードバックをWebフォームに記入 (3分)
 - 上記の流れを3人分行う
 - (全体) 共有する

ご自身の教育実践内での
使い所を考える

検討ワーク

聴講

反転授業の記事確認, 個人ワークの投稿確認

グループワーク

グループワークに参加したい方は名前の前に「G」を入れてください

- ・(個人) 自分の教育実践での活用場面・方法を考える (4分)
- ・(グループ) 考えたことを共有 (8分)

個人ワーク

LearnWiz One を用います

- ・自分の教育実践での活用場面・方法を LearnWiz One に投稿 (8分)
- ・他の人達の投稿を確認 (4分)

全体共有

おわりに

おわりに

- ご参加いただきありがとうございました！
- アンケートにご協力ください！
- 今後の公開イベント
- 情報発信・共有
 - メーリングリスト: Web フォーム or Google グループからの登録
 - 情報発信: Facebook ページ